

震災から復活 取扱貨物量が順調に回復

- 茨城港常陸那珂港区(ひたちなか市, 東海村)の応急復旧による利用再開 -



【課題】

- 東日本大震災による津波や地盤の液状化の影響により、県内の各港湾施設に甚大な被害が発生しました。
(すべての港湾機能がストップ)
- 港湾物流の機能を回復させるため、被災施設の早期復旧が必要となりました。

【対応】

- このような状況の中、茨城港常陸那珂港区では、震災直後から応急復旧に取り組み、震災1か月後には荷役を再開しました。
- また、主要な港湾施設は、2か年以内の完了を目途に、利用優先度等に応じて本格復旧を実施しています。

【効果】

- ◎震災により休止していた定期航路がほぼ運航再開しました。
(震災前:15航路 震災後:14航路(新規航路を含む))
- ◎震災による影響を乗り越え、震災1年後までに取扱貨物量が順調に回復しています。(H24.4末 全12公共岸壁が供用再開)
- ◎茨城港常陸那珂港区の需要が増大し、一層の整備促進が求められています。
- ◎港湾施設の復旧に合わせ、港湾背後地の大手建設機械メーカーが工場用地拡張や新工場増設など生産体制を強化しています。



◎岸壁の応急復旧状況(震災1週間後)



◎応急復旧により荷役再開(震災1か月後)



◎本格復旧後の荷役状況(震災1年後)

